

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社ユニマツ リタイヤメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 A		
所在地	愛知県半田市星崎町二丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成28年01月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400160-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階
訪問調査日	平成28年02月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、少人数の外出や散歩を行いまたレクリエーションを積極的に取り組んでいます。またご入居者様の現存能力をかして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア、医療と訪問看護(H27年8月から)の連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションや年1回の夏祭りや盆踊り、地域の祭礼に参加しています。意欲がわくように表形式で示し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は半田市雁宿公園に隣接した閑静な住宅地の中にある。近年、裏山が宅地造成され景観の変化と共に耐震等への課題も運営推進会議で話し合われている。事業所は、1階にデイサービスと居宅介護支援事業所が併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。事務所を中心に左右対称にユニットが並び、南向きの幅広いベランダは共用となっている。リビングからは家庭用の手動式鍵の開閉でベランダに出ることができ、日々の外気浴や洗濯物干し、イベントなどに使われている。昨年10月に会社名が変わったが、事業所自体の運営や形態には変わりはなく、業務が遂行されている。管理者や職員は協力し合って入居者のケアサービスに努めている。運営推進会議や面会に来所される家族が多くなり、色々な意見や要望が聞けるようになってきた。入居者の高齢化と介護度の進行により外出支援に苦慮しているが、併設のデイサービスに於いてデイサービス利用者と共に、リクレーションや書道などの余暇活動に参加するなどして、健康維持や楽しみある生活支援につなげている。入居者は明るくゆったりとしたリビングで、ゲームをしたりテレビを観たり、穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は玄関等、目に触れ易い所に掲示しております。以前(平成27年10月前)は全体会議で唱和し取り組んでいましたが、会社の方向性が違いしてない。	昨年10月に会社名が変わった。会社の総合的な理念が、玄関に掲示してある。職員にとって会社の方向性が不明なため、理念を共有して実践するまでには至っていない。事業所としての理念を検討中である。	理念は日々の業務を行なう上で基本となるものである。地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作り、職員全員で共有して実践につなげることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、盆踊り等のイベントで地域の方に声を掛けさせて頂き、交流を図っている。	町内会には加入していないが、道路向かいの大家さんや運営推進会議で地域の民生委員等から情報を得て、盆踊りなど地域の行事に参加している。事業所の夏祭りに地域の方々を招待し、ゲームや 屋台、ボランティアによる催し物などで賑わいを見せ交流を深めている。日々の散歩や近所のコミュニティで会う近隣の方とのふれ合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年初に管理者が認知症講座で相談等で参加したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員、行政職員、民生委員の方を交え、話し合いを行ない、サービスの向上に努めている。	入居者や家族、民生委員、行政の参加を得て2ヶ月に1回開催をしている。事業所の状況や活動状況の報告をしたり、行政からの報告、参加者からの意見や要望、アドバイスなど活発に評議されている。会議議事録として記録され、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長、管理者が行っており、市の担当者の方と頻りに意見交換し、向上を図っている。	運営推進会議や介護保険更新手続き、相談等で担当窓口を頻りに訪れサービスの取り組み等を伝えたり情報交換をしながら協力関係を築いている。市主催の事業者連絡協議会の研修に参加したり、地域包括支援センターの依頼を受けて認知症についての啓蒙に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チームを作り、防止に努めている。	併設のデイサービスセンターと合同で「身体拘束防止」チームを作り活動している。全体会議やユニット会議で出た具体的な事例を基に介護方法や接遇について話し合いを重ねて改善に取り組んでいる。今年度はスピーチロックを重点に取り組みをしている。建物の構造上、安全のために各ユニットの出入り口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チームを作り、研修や全体会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいるため研修会を通じて勉強し相談等実践で活用できるよう環境を整えている。権利擁護について職員でも知らない人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行なっているが、出来る限り、ご利用者様、ご家族様の不明なところをお答え出来る様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会にお見えになられた時、気軽にお話して頂ける様な雰囲気作りに努め、情報をお伝えし要望を確認して反映されるよう取り組んでいる。設備面で言われる。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握に努めている。家族からは運営推進会議や面会時、家族会などに意見や要望を聞くようにしている。最近では面会の回数が増え意見や要望を聞く機会が多くなっている。意見や要望は、運営に反映させるよう取り組んでいる。毎月のお便りで情報提供をしたり、玄関には「要望・相談ノート」を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を通し、現場の意見や提案を聴き、反映している。また、面談の機会を設け意見交換している。	月1回行なわれる全体会議やグループホーム会議、各ユニット会議で意見や提案・要望を出し合い、話し合っって運営に反映させている。年2回の人事考課や個別面談があり意見や要望、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の為環境が厳しい状況で職員の実際の力量を伸ばすのは難しいが、現場からの声を聴き、環境を良くしようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修等に参加する機会があり積極的に参加するよう促しているが実践できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等にて、他施設の方との交流もあるが、あまり参加の機会がとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の思いや要望などを聞き安心してサービス利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いや考えを聞き信頼が得られるような対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方々にあったサービス提供ができるように話を聞き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様との良い関係ができるようにご本人様の気持ちになって理解し対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と協力しご本人様が良い状態になれるようケアをしていく。関係を大切にしてい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまり実践できていない。	入居者の介護度が進み、外出支援が少なくなり、馴染みの場所や人との関係継続が難しくなっている。日常生活の中でゲームに参加したり職員と一緒に作業等で体を動かすとスタンプがもらえる。集めてご褒美に近くのカフェに出かける楽しみを作るなど、新しい馴染みの場所作りにも努めている。同施設内のデイサービス利用者や友人の面会の誘いを働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人たちと仲良く過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係は大切にしている。必要に応じて連絡・相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ希望に対応できるようにしている。困難な方が多いので本人本位で考えている。	日常の会話や表情などから暮らしの意向や希望を把握するようにしている。把握した情報は介護記録や申し送りノートに記録し、話し合って実現できるように検討している。意思疎通が困難な方は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に聞いて確認して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の変化や様子を観察し現状を理解できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等でご家族様へのモニタリングや職員の担当者会議にてご本人様の現状に合った計画を作成できるように関係者で話し合い作成している。	毎月のカンファレンスでモニタリングをしている。家族からは面会時等に状況報告と共に、介護計画について話し合っている。本人や家族、受け持ち担当者や主治医の意見も参考にして現状にあった介護計画を作成している。3か月毎の見直しであるが、状況変化に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事や重要なことは記録に残し皆で共有できるようにしている。また見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なご利用者様には、デイフロア等での行事や、イベントに参加して頂いている。また状況によって柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用があまりできていないが、ねこカフェが近くにあり利用して楽しんだりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に定期的な受診や往診により、何かあった場合はその都度相談に乗って頂いている。また状況に応じ訪問リハビリを行なっている。	入居時に入居前のかかりつけ医か提携医を希望するかを確認している。かかりつけ医による定期受診や往診がある。提携医では内科、歯科の往診がある。受診結果は記録し申し送り等で周知を図りケアに活かしている。訪問看護が入るようになり医療面が充実された。希望により訪問リハビリも利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気づいた点等あれば、随時相談し、必要に応じ医師に連絡、受診介助を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等、ご利用者様の状況を伺いに行ったり、ご家族様や医療関係者との相談を行ったりしている。管理者がしていることが多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談等あれば随時対応している。また、こちらからもご家族様に連絡させて頂き、状況等お伝えして、ご家族様の気持ちを確認させて頂いている。管理者が主に確認している。	重度化や終末期に向けた方針については入居時に「命の事前確認書」を取り交わし、事業所としての方針を家族に説明している。状態の変化に合わせてその都度家族に確認を取っている。医療体制が強化され、家族の希望により看取りを行なう予定を運営推進会議でも報告し家族から期待の声が寄せられている。看取りの経験がある。	医療体制が強化され、終末期ケアや看取りを計画的に行なっていく方向であれば、家族の意志確認だけでなく、手順書やマニュアルを作成し、手技や心のケアについて研修を重ねたり、職員のメンタルケアにも留意されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの掲示や、救命講習の受講を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。地域との協力は道向かいの人に何かあればお願いをしてある。	夜間の火災と地震を想定した訓練を行なっている。消防署の指導も受けており、指摘のあった箇所や課題については運営推進会議やカンファレンス等で話し合い改善に向けた取り組みを行なっている。施設周辺の環境変化についても(宅地造成地)地盤強度等確認していく方向である。1週間分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等はイニシャルにて対応。一人一人に合った声掛けを心掛け、丁寧な言葉かけに十分な配慮をしている。	一人ひとりの尊重やプライバシーを損ねない言葉かけやケアに配慮している。面会者が増加している中で、苦情等の事例を参考に、皆で話し合い、誰が聞いても不快にならない丁寧な言葉かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができない方が多いが、ご本人の希望を尊重しながら対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員の関係でご希望に沿えないこともあるが、出来る限り個人の希望を取り入れ、希望に添って支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、ご自分で選ぶ事の出来る方には選んだりして頂いている。整容は美容師が来所して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、片付けの中で、参加して頂ける方には参加して頂いている。また、楽しんで頂ける様に行事食等も随時考えている。	栄養士の立てた献立を基に入居者の好みや好き嫌いを考慮し、旬の食材や季節感を取り入れながら職員がメニューを決めている。入居者は個々の能力に応じて職員と一緒に準備や後片付け、台拭きなどを行なっている。職員は、食事介助や見守りを行ないながら、同じ食卓を囲んでいる。外食ツアーを計画したり、行事食やおやつ作りなどを随時取り入れて、食事が楽しみになるような支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態にて提供したりなるべく多く取って頂く様にしている。脱水にならないように水分はチェック表を使用し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施して頂ける様促している。出来ない方は介助させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にて行なえる方は、自己にて行なって頂いている。また、そうでない方はおむつの形態や時間で声掛けし誘導している。	自立の方以外は排泄チェック表で排泄パターンを把握し声かけをしたり、素振り等から察知してトイレ誘導をしている。特に日中はトイレで座位排泄を促すなど自立支援に努めている。水分や食品、運動などを組み合わせ便秘予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックして便秘薬の服用や食事に繊維の多く含まれている食材や、ヨーグルト等を取り入れている。また水分量を多くして運動をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、声掛にてご本人様の希望を確認して入浴を行なっているが、身体状況に合わせて曜日を固定している方もいる。また、季節等に応じて、柚子湯や、菖蒲湯等を行なっている。	午後の時間帯ではあるが毎日入浴支援をしている。個浴槽が2つ備えられた浴室は床暖房になっており、脱衣場にもヒートショック対策がされている。湯の清潔に留意し、季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでいる。入浴拒否のある入居者には声かけの工夫やタイミングを見計らうなど工夫し、個々に沿った支援を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人に応じて、入眠時間や休息時間を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全てを把握しきれてはいないが、薬の有無については把握している。わからないことや不安のことがあればスギ薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを実施している。外食や買い物など個別対応も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で外食はあるが、外出する機会は少ない。家族の協力のもとではなかなかできていない。	天候や入居者の体調に合わせた外出支援を行ないたいが、介護度が上がり外出をしたがらない入居者や、職員不足などの事情もあり思うように実施できていない。家族の協力を得るまでには至っていない。	家族の協力を得たり、ボランティアの活用等人手を増やす方法を皆で話し合ったり、運営推進会議等で相談したり、アイデア募集をすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金の管理が出来る方が居ないので施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	平成27年12月から家族方へ最近状況をお伝えするお手紙を担当者から送るようにした。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いごこちよく生活できるように温度調整や椅子の配置をしている。家族が面会時行事風景の写真を掲示している。	事務所を挟んで左右にユニットが配置され、多目的に利用できる幅広いベランダを共用している。明るく広いリビングや廊下には加湿器や空気清浄機が設置され、快適な生活環境が整えられている。壁面には、季節の作品やイベント時の写真が飾られている。入居者はゆったりしたソファークーナーやテーブル席で、思い思いに新聞や雑誌を読んだり、テレビを楽しんだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様同士が思い思いに過ごせるよう席を近くする等している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、好みの物等を置いたりしている。	家族や本人と相談して、自宅で使っていた馴染みの小物や好みの作品、家族との写真などを飾り、安心して居心地良く過ごせる空間を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った生活が送って頂ける様状態を把握し、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 B		
所在地	愛知県半田市星崎町二丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成28年01月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400160-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階
訪問調査日	平成28年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、月1回は散歩、外出、外食等によって全員で取り組んでいます。またご入居様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア、医療と訪問看護(平成27年8月から)の連携を実施しています。お手伝いや料理作りを行いグループホーム生活に生きがいを感じるように行っています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションや年1回の夏祭り、盆踊り、地域の祭礼に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は半田市雁宿公園に隣接した閑静な住宅地の中にある。近年、裏山が宅地造成され景観の変化と共に耐震等への課題も運営推進会議で話し合われている。事業所は、1階にデイサービスと居宅介護支援事業所が併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。事務所を中心に左右対称にユニットが並び、南向きの幅広いベランダは共用となっている。リビングからは家庭用の手動式鍵の開閉でベランダに出ることができ、日々の外気浴や洗濯物干し、イベントなどに使われている。昨年10月に会社名が変わったが、事業所自体の運営や形態には変わりはなく、業務が遂行されている。管理者や職員は協力し合って入居者のケアサービスに努めている。運営推進会議や面会に来所される家族が多くなり、色々な意見や要望が聞けるようになってきた。入居者の高齢化と介護度の進行により外出支援に苦慮しているが、併設のデイサービスに於いてデイサービス利用者と共に、リクレーションや書道などの余暇活動に参加するなどして、健康維持や楽しみある生活支援につなげている。入居者は明るくゆったりとしたリビングで、ゲームをしたりテレビを観たり、穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は玄関等、目に触れやすい所に掲示しております。以前(平成27年10月前)は全体会議で唱和し取り組んでいましたが、会社の方向性が違いしてない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、盆踊り等のイベントで地域の方に声を掛けさせて頂き、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年初に管理者が認知症講座で相談等で参加したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員、行政職員、民生委員の方を交え、話し合いを行ない、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長、管理者が行っており、市の担当者の方と頻りに意見交換し、向上を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チームを作り、防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チームを作り、研修や全体会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいるため研修会を通じて勉強し相談等実践で活用できるよう環境を整えている。権利擁護について職員でも知らない人がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行なっているが、出来る限り、ご利用者様、ご家族様の不明なところをお答え出来る様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会にお見えになられた時、気軽にお話して頂ける様な雰囲気作りに努め、情報をお伝えし要望を確認して反映されるよう取り組んでいる。設備面で言われる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を通し、現場の意見や提案を聴き、反映している。また、面談の機会を設け意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の為環境が厳しい状況で職員の実力の力を伸ばすのは難しいが、現場からの声を聴き、環境を良くしようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修等に参加する機会があり積極的に参加するよう促しているが実践できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等にて、他施設の方との交流もあるが、あまり参加の機会がとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に安心して頂けるよう、よく話を聴き、過ごしやすい環境を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会にお見えになられた時等、要望、お話を聴かせて頂き、少しでも満足して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行なう上で必要な支援を共に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしているが、介護の気持ちが強く一方的になることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関りを大切にし、共に過ごす時間が持てるよう努めている。また、生活が楽しく過ごせるようにご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や、馴染みの方が面会に来られた際には、いつでもお越し頂けるよう声掛けを行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性等も考えながら、孤立しないよう良い関係が築けるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係は大切にしている。必要に応じて連絡・相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の会話や様子から把握をしている。計画作成者に伝え、思いや意向が実現できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やアセスメント等により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議や申し送りなどの情報の共有によって把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等でご家族様へのモニタリングやスタッフへのモニタリングを実施し、ご本人様の現状に合った計画を作成できるように関係者で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入し気づいた点等は、職員間で申し送りで共有している。また、重要な情報は赤字等で見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なご利用者様には、デイフロア等での行事や、イベントに参加して頂いている。また状況によって柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	人員の関係で地域資源(スーパー、朝市等)へ行けなくなってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に定期的な受診や往診により、何かあった場合はその都度相談に乗って頂いている。また状況に応じ訪問リハビリを行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気づいた点等あれば、随時相談し、必要に応じ医師に連絡、受診介助を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等、ご利用者様の状況を伺いに行ったり、ご家族様や医療関係者との相談を行ったりしている。主に管理者がしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談等あれば随時対応している。また、こちらからもご家族様に連絡させて頂き、状況等お伝えして、ご家族様の気持ちを確認させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの掲示や、救命講習の受講を行なっている。11月に講習参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をしている。近隣の方への協力依頼を行なっているが、一緒に訓練はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等はイニシャルにて対応。一人一人に合った声掛けを心掛け、丁寧な言葉かけに十分な配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を尊重しながら対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員の関係でご希望に沿えないこともあるが、出来る限り個人の希望を取り入れ、希望に添って支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、ご自分で選ぶ事の出来る方には選んだりして頂いている。整容は美容師が来所して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、片付けの中で、参加して頂ける方には参加して頂いている。また、楽しんで頂ける様に行事食等も随時考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態にて提供したり、水分はチェック表を使用し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施して頂ける様促している。出来ない方は介助させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にて行なえる方は、自己にて行なって頂いている。また、そうでない方は時間で声掛け、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックして便秘薬の服用や食事に繊維の多く含まれている食材や、ヨーグルト等を取り入れている。また水分量を多くして運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、声掛にてご本人様の希望を確認して入浴を行なっている。また、季節等に応じて、柚子湯や、菖蒲湯等を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人に応じて、入眠時間や休息時間を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全てを把握しきれてはいない。2人体制で服薬忘れしないように行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを実施している。外食や買い物など個別対応も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良く、ご本人様の体調の良い日等に外出している。また、ご家族様と協力により外食や喫茶、買い物を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所していてお金を気にされる方が多い。しかし紛失等があるといけないので管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	平成27年12月から家族方へ最近状況をお伝えするお手紙を担当者から送るようにした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いごちよく生活できるように温度調整や椅子の配置をしている。家族が面会時行事風景の写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様同士が思い思いに過ごせるよう席を近くする等している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、好みの物等を置いたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った生活が送って頂ける様状態を把握し、支援している。		